

# 水田輪作での子実用トウモロコシ栽培には RM115 の品種が利用できる

福島県農業総合センター 畜産研究所 飼料環境科

## 1 部門名

畜産－飼料作物－飼料作物

## 2 担当者名

菅野那奈、木村有希、片倉真沙美、柳田和弘、萩原瞳

## 3 要旨

国産濃厚飼料としての期待が高い子実用トウモロコシを、水田輪作に組み込むことができ、かつ極早生品種より多収な飼料用トウモロコシの品種を検討した結果、相対熟度（以下「RM」という。）115 の品種が適していた。

(1) 9月上旬に収穫(完熟)期まで到達し、極早生品種より多収だったのは、4月下旬に播種した RM115 の品種だった(図 1)。

(2) 収穫(完熟)期のカビ毒含有量は、RM115 の品種の方が極早生品種より少なかった(表 1)。

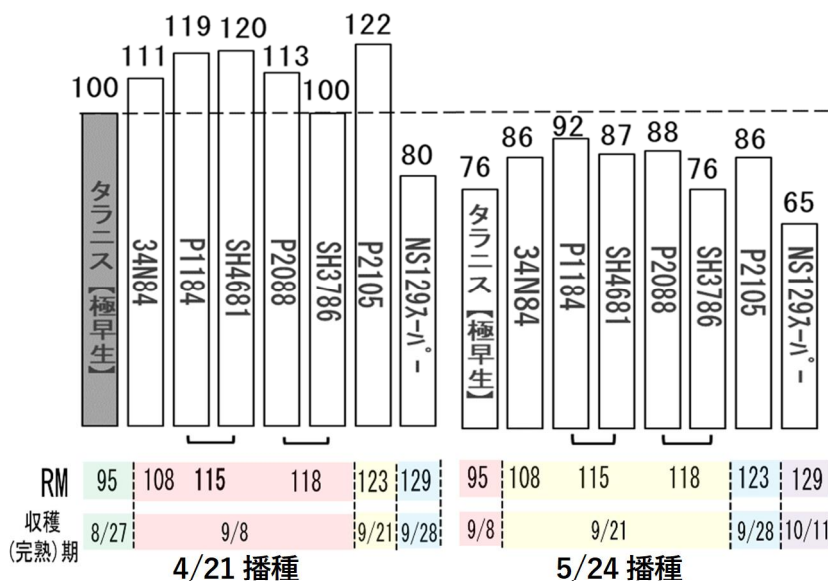


図 1 播種時期別の各品種子実収量比\*と収穫(完熟)

\*4/21 播種の「タラニス」の子実収量を 100 とした時の子実収量比。

表 1 収穫(完熟)期のカビ毒含有量(2021~2022 年平均) (mg/kg)

RM	品種	デオキシニパレノール	ニパレノール	ゼアラレノン	フモニシン B1+B2+B3
115	SH4681	0.1	0.2	0.02	2.6
	P1184	0.1	0.1	0.01	2.0
95	タラニス	0.5	0.3	0.67	3.4
基準値		3.0	-	0.50	4.0

1)デオキシニパレノールは、反芻動物(ほ乳期を除く)に給与される配合飼料の基準値

ゼアラレノンとフモニシン(B1+B2+B3)は、家畜及び家畜に給与される配合飼料の基準値

なお、家畜は牛、豚、めん羊、山羊、及び鹿を指すが、フモニシン(B1+B2+B3)のみ馬(食用)を含む。

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和 3~5 年度

(2) 研究課題名 広域エリアを対象とした大規模水田営農における生産基盤技術の確立  
〔農林水産分野の先端技術展開事業 (JPJ009997)〕

## 5 主な参考文献・資料

(1) 中村フチ子, 飼料用トウモロコシの「タラニス」と「エスパス」は大規模水田輪作体系での子実利用に適している, 福島県普及に移しうる成果